

インターバンクの声（2017年3月23日）

つい10日程前までは115円台で取引されていたドル円だが、昨日のニューヨーク市場の午前中に110円台まで円高・ドル安が進んだ。10日間で5円も大台変わりが進んでしまったのは、いささか急過ぎる気がする。

しかし、今週に入ってからドル売りは、トランプ米政権の税制改革やインフラ投資の実施規模や進め方などの具体案が依然として示されないことで、先行きに対する懐疑的な見方が急速に広がり始めたことが原因だ。トランプ大統領が掲げた税制改革やインフラ投資などの政策方針が昨年11月の大統領選以降のトランプラリーを実質的に支える背景になっていただけに、市場が政策の遅れに苛立ちを見せ始めた影響は大きい。

これまでドルが下落する場面では、すぐにドル買いに動く投資家が多かったが、ここ数日はドルが反発する場面でドル売りに向かう投資家が増えている。正確には今までのドルの買いポジションを維持しながらも、短期的にはドルを売ってすぐに買い戻している。

中長期的にはドルの上昇を見込んでいるドル・ロングが売られ始めると大変だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。